

CBRC Newsletter

<http://www.cbrc.jp/>

SUMMER 2009

28

日印国際交流推進事業をとおして



福井 一彦

(Kazuhiko FUKUI)

分子機能計算チーム長

エッセー ● ● ①

トピックス(養成コース) ● ● ②

研究紹介(津田) ● ● ③

お知らせ・成果紹介・研究員紹介 ● ● ④

昨年から、戦略的国際科学技術協力推進事業やインド科学技術省バイオテクノロジー局との包括覚書(MOU)に基づき、バイオインフォマティクス分野における日印国際交流として、主に生命情報工学研究センター分子機能計算チームの研究員とインドへ行く機会があります。インドの空港に降り立つと、夜にも関わらず気温は30度を優に超えており、蒸し暑い空気に包まれ、夜中だというのに、空港にはいったい何をしているのか皆目見当のつかない大勢の人を目にすることができます。ここから車で研究機関や大学へ移動する際には、インフラ基盤整備のため、至るところで道路工事や建設作業が行われており、主な幹線道路はおおむね渋滞し、窓の外を見れば車に混じって、すまし顔の牛が歩いているのを目にします。昨年からですすでに5つ以上のインドの主要都市にある大学や研究所を訪れる機

がありましたが、こうした光景はこの都市でも共通して見られ、急成長している街の様子をうかがい知ることができます。

この日印国際交流研究では、CBRCとインド間の研究拠点を情報通信技術により繋ぎ、これまで各々推進してきた生命情報に関する研究を、二国間の特徴を活かしながら展開させ、解析ソフトやデータベースの開発・統合を目指しています。インドの大学にて分子シミュレーションや解析ソフトのディスカッションをしますと、大学の先生や研究者の方々から色々な質問やアドバイスを受け、議論好きな国民性が伺われます。これは議論好きだと言うだけではなく、計算機による分子シミュレーションやモデリングに対する彼らの関心度の高さも勿論あるのだと思います。グローバル化の波に乗ったインドIT産業界で最も知られている企業；インフォシス・テクノロジーズで、超

型旅客機A380のシミュレーションによる設計などを手掛けているように、インドでは頭脳を生かした情報産業に特に力を入れていると感じます。

近年、グローバル化のバズ(buzz)・ワードとしてクラウドコンピューティングがあります。クラウドとは恐らく何か一つの技術や使用を指すものではなく、これまで世界中で開発されたIT技術や生命情報の統合に向けた現象であり、その裏にはグリッドなどと言った様々な技術潮流が隠されていると考えられます。日印国際交流推進事業では、クラウド(雲)の中、額の真中にあるビンティールと呼ばれる真実を見通す第三の目をも活用して研究を推進できたらと思います。

